

アンケート集計結果

【問1】ゼロカーボンの取組・行動として、「自分たち（自分）でやっていること」又は「自分たち（自分）でできそうなこと」は何ですか？

※ゼロカーボンアクション 30 の取組ごとに分類

I 電気等のエネルギーの節約や転換	
	節電（昼休憩時の消灯・不要な照明の消灯・こまめに消灯・冷暖房を抑える など）
	節水、省水（水道の使用時に蛇口を開けっ放しにしない など）
	シャワーを流しっぱなしにしない。湯（浴槽の量）のメモリを1つ減らす。追い炊きを減らす。
	省エネ家電の使用
	照明のLED化
	CO ₂ 排出量算出サービスの提供（CO ₂ 排出量の見える化）
	工場内の焼成炉外面に遮熱シート貼付（工場内の熱対策と燃焼費向上）
	工場エア用コンプレッサのタイマー運転
	輸送の効率化
	デジタル技術の導入（ダイヤシステムの導入により作業の効率が向上）
	新型車両導入における省エネ化推進によるCO ₂ を約40%削減
	バイオコックス・バイオディーゼル燃料混合経路「B5」の活用
	オーバーツーリズムへの対策（遊覧船やロープウェイのオフピーク営業、夜行列車・臨時列車運行などによる渋滞対策）
	ペーパーレス化（業務における紙ベースでの資料のほぼ廃止による省エネ化と業務効率化）
II 住居関係	
	再生可能エネルギー（太陽光パネル等）の設置
III 移動関係	
	近距離の買い物、通勤では自動車の使用を避けて歩く、自転車を使う。
	EVバスの利用
	ガソリン車からハイブリット車への乗り換え
IV 食関係	
	食品ロスの削減
	コンポストの導入
	自分たちで食べるお米、野菜を自分の手で育てる。また、育てるための肥料等を地域の中でまかなう。（食料や肥料の輸送コスト及びCO ₂ 排出の低減、農地の保全・活用）
	調理の際に出る調理くず等の野菜くず、生ごみを農園で飼っているニワトリへ与える。生ごみと鶏ふんは混ざり、醗酵することで良い肥料になる。（生ごみの焼却の燃料代とCO ₂ 排出の低減）
V 衣類、ファッション関係	
	洋服は丈夫で長く着られるものを選ぶ。
VI ごみを減らす	
	マイペン、マイバック、マイボトル運動（プラスチック製品の使用削減）
	ごみを増やさない。
	ごみの分別を徹底する。
	わらしべ長者まつり（一着一品交換会）（3Rの推進）
	なるべくペットボトルを買わないように水筒を持ってくる。

Ⅶ 買い物・投資	
	—
Ⅷ 環境活動	
	未来のための環境講座の開催 (グリーンコンシューマーになろう、くらしと化学物質、侵略的外来生物の現状、食品ロスを減らそう、海洋プラスチックのこと他)
	農産物直売所めぐり、生産工場見学研修 (地産地消の推進、生産者と顔の見える関係作り、情報交換、環境問題について考える。)
	出前講座、高校生を対象とした環境学習 (暑さ指数計を自作してもらい、それを社会に向けて発信する授業)
	都市部や県内山間部へのCO ₂ 削減対策として「トラックの森づくり(植樹事業)」を実施
	ごみのポイ捨て禁止について放送(FM NACK5)
	2050年カーボンニュートラルの実現に向けて社の環境基本方針に基づき、温室効果ガスの削減 IOWN の導入や再生可能エネルギーの開発・利用拡大、カーボンニュートラルに貢献するサービス提供等により、事業活動および社会における温室効果ガス削減に取り組む。
	カーボンニュートラルと電力の安定供給の両立に向け日々取り組んでいる。昨今、地域としてカーボンニュートラルと防災、レジリエンスへの取り組みを進めたいというご要望に対し、「まちづくり事業」でお応えしていく。

【問2】ゼロカーボンの取組・行動として、「自分たち（自分）が行政と一緒にやりたいこと」、「行政にやってもらいたい、やってみたら面白いのではと思うこと」は何ですか？※予算や技術的なことなど実現可能性を気にせず、自由にご意見ください。

	●再生可能エネルギーの導入促進
	学校や公共施設へのソーラーパネルの設置
	公共施設駐車場へのソーラーカーポートの設置
	工業団地の屋根等を行政が借り受けてソーラーパネルを設置
	メガソーラーパネルの導入
	ビルや一戸建て家屋の屋根上、屋上の太陽光発電パネル設置の推奨、補助
	営農型太陽光発電の普及（補助金）
	●次世代自動車の導入促進
	現行の「デマンド乗り合いタクシー」を「デマンド乗り合いかつ EV 自動運転タクシー」へ
	EV 車両や次世代燃料を使用した車両の導入
	観光バスや運送トラックなどを EV 化（非常電源として給電や避難所への電力供給）
	EV 車を活用した災害時の避難所運営、地域防災拠点の設備形成や運営
	●参加体験型イベント・学習
	スタンプラリー×商店街（商店街と連携し、エコな買い物をテーマにしたスタンプラリーを実施）
	クリーンアップアクション（近隣の河川や公園でゴミ拾いを行い、参加者全員でエコ活動を実施）
	自然観察ツアー（市内の自然を巡り、環境保全の大切さを学ぶツアー）
	ゼロカーボンへの取組を行った市民に対して、「うどん店」への割引クーポンの発行（商工会との連携）
	高校生の高校生による高校生のためのフリーマーケット
	ゴミ拾い（コミュニケーションの場合）
	小学生を対象にした学校での環境教育の充実
	ゼロカーボン学習館など、市民が継続的に学べる拠点施設の創設
	生ごみの堆肥化（コンポスト）の勉強会
	●普及啓発 P R
	「ジャンボこいのぼり」などのイベントを活用したゼロカーボンの取組のお願い及び P R 活動
	エコチャレンジキャンペーン （イベント前後に、家庭や企業でできる小さなエコ活動を投稿する SNS キャンペーンを展開）
	加須市の LINE でゼロカーボンに関する俳句を掲載（ユニークなもの）
	加須市のゴミ袋のデザインを工夫（ゼロカーボンに関するイラストなど）
	ゴミのポイ捨て禁止ステッカー（こいのぼり）を配布
	簡易トイレの配布（こいのぼり図柄）を配布
	地元産の農産物を使っている店や保育園を認証する制度
	遮熱シート等まだ世間にあまり認知されていない（信憑性が不明）技術等を検証し、広める。
	かぞ版スーパーシティと連携（地域農業の活性化を通して「地産地消」の普及啓発）
	かぞ版スーパーシティと連携（浸水リスク等の気候変動で悪化するリスクを適応策とともに提示して普及啓発）
	●取組・活動
	カーボンに関するカルタの制作
	配布物ゼロ運動（市や市民団体主催の講座やイベントでの配布物）

	市役所&公共施設片付け隊を編成
	ペーパーレス化の推進（「ペーパーレス化宣言」）
	コンポストの導入
	休耕田その他使用しない土地の緑化、植林の推進
	ビル屋上の緑化やグリーンカーテンの推奨
	ノーカーデーの全市的なイベント化、そのためカーシェアと自転車通勤推進
	省電力家電への買い替えの推奨
	自動車等での移動を減らすという意味で、各種委員会のオンライン開催、オンライン業務の拡大
	エネパイロット（EMS） 特定の地域内での統合的なエネルギーマネジメントにより、「余剰電力再利用」、「電力コスト低減」、「電力供給安定化」を図り、再エネ設備の導入しやすい環境を整備し、エネルギーの地産地消および地域における脱炭素の促進に貢献
	可搬型蓄電池 地域の再エネを可搬型バッテリーに蓄電して EMS で効率運用することで再エネの有効活用や BCP 対策を実現 ・可搬型バッテリーEV を観光や運送、移動販売に利用することで再エネ有効活用、EMS で効率運用 ・公共施設（病院、避難所）や企業店舗の非常用電源に再エネを活用、EMS で災害への備えを計画的に実施
	高付加価値型 LED （リモコンで1台ずつ調光できる LED 照明、カメラ付き LED 照明、UV-A 除菌 LED 照明）
	グリーン電力証書
●その他意見	
	市民を巻き込んだゼロカーボンの取組を進めていくためには、みんなの意識改革が必要
	ゼロカーボン推進の取組に関して夢を語るのは簡単だと思うが、現実的にはコストが重荷になるのは必然であるため、各種取組に掛かるコスト負担や補助に関する施策を具現化していただきたい。
	今回のアンケートやゼロカーボンシティ推進協議会の開催案内などを紙ベースで郵送いただいているがこれを電子メールで対応することでゼロカーボン推進だけでなく、業務効率化や郵送コスト削減にもつながると思われる。

【問3】加須市では、毎年、環境について学ぶ・体験するイベント「環境フォーラム」を開催しております。来年度、「ゼロカーボンシティの推進」をテーマに、市民・事業者・行政が楽しく集まれる場となるように内容の充実を検討しております。そこで、多くの方に興味・関心を持っていただくためには、どのような内容・企画がよいと思いますか？

	●講演・発表
	著名人や専門家による講演 (環境活動家やゼロカーボンに取り組む企業の代表者を招き、わかりやすく具体的な取組を紹介)
	市民参加型のトークセッション (「私たちにできるゼロカーボンアクション」をテーマにしたディスカッション。市民、事業者、行政が意見交換する場を作る。)
	実践活動している事業者・市民団体・市民の活動発表、パネル展示
	●参加・体験
	エコクイズラリー(会場内にエコに関するクイズポイントを設置し、すべての問題を解くと景品がもらえる企画)
	再生可能エネルギー工作(太陽光発電キットや風力発電ミニ模型を作成するワークショップ。子どもから大人まで楽しめる内容にする。)
	手作りソーラーパネルカーの作成
	アップサイクルクラフト(廃材や不要品を使ったアート作品や実用的なアイテムを作るワークショップ。リサイクルの意識向上に繋げる。)
	エコクッキング体験(食品ロスを減らす調理法や、地元食材を使った簡単なレシピを紹介し、実際調理を体験)
	カーボンフットプリント測定体験(各家庭のCO ₂ 排出量を簡単に測定し、削減のヒントを提供するコーナーを設置)
	EV(電気自動車)試乗体験(最新のEV車や水素自動車に試乗できるブースを設置し、未来の交通手段を体感)
	ゼロカーボンシティ関連の見学ツアー
	<子供向け>遊んで学ぶ、電気をつくる体験(手回し発電機やエコカー製作等)
	電気を効率的に使うための「省エネ」についてご紹介(クイズ形式等)
	VRでの尾瀬のご紹介
	太陽光発電の導入サービスのご紹介
	<小学生向け>省エネ教室(電気はどのように作られるか、電気はどのように届くのか、地球温暖化とは何か省エネ/再エネとはなにか)
	<小学生向け>発電体験(手回し発電機や風力発電模型を用いて実際に体験する。)
	<小学生向け>〇×クイズ(電気に関するクイズを行い、省エネ教室での内容を定着させる。)
	<小学生向け>電気事業者からの給電実演(電気自動車から電気を取り出し使用する過程を学ぶ。)
	●展示
	最新の再生可能エネルギーの体験、見学会(ペロブスカイト太陽光発電や、潮力発電その他のミニチュアを展示する。また、非接触型充電による電気自動車の走行など、近未来型の技術を身近に見せる。)
	透明なアクリルで囲った閉鎖空間に、着色したCO ₂ などを充満させ、植物の炭酸同化作用で、内部の空気が清浄化するといった実験を見せる。また、緑地と裸の土地、コンクリートやアスファルト舗装など、材質の違う地面への熱の照射実験を見せることで、緑化がゼロカーボンだけでなく、温暖化防止にプラスになることを実感できる実験を見せる。そして、身近な庭や建物の緑化のモデルを示す。
	加須市の環境問題への取り組みの宣伝と他の自治体との状況の比較
	ゼロカーボンに取り組む企業・団体の展示 (実際の取り組み事例を紹介するパネル展示や製品体験ブースを設置)
	CO ₂ 増加の歴史、それに伴い環境破壊の歴史を掲示

	世界のいずれかの国で行っている、画期的なゼロカーボンへの取組み事例紹介
	緩和策（ゼロカーボン）と適応策との相乗効果に関する展示 （ゼロカーボンだけでなく、気候変動の悪影響を避けるための適応策普及を促す。）
	ゼロカーボン技術を持つ企業の展示等で今まで知らなかった物を広く開示する。猛暑対策の遮熱シートやお湯を早くわかせる塗料等様々な物があります。
	●出店
	地元農産物の販売や試食 （地産地消の魅力を伝え、環境への貢献を促す。）
	地元の農産物を地元の飲食店が調理して、販売するマルシェのようなもの。提供する際の袋や容器にプラスチックを使わない。参加費で自分の食器を持ってきた人にポイントをあげるなど工夫する。
	●その他のご意見
	環境フォーラムに関するロゴの制作・コンテスト （市内でロゴのコンテストを行い、グランプリを受賞した作品は環境フォーラムの正式なロゴとして採用する。）
	加須市の中学校を卒業した高校生や大学生で何か企画する。
	打ち上げ花火のような1日だけのイベントも効果は大きいですが、長期間の展示なども合わせて開催するとよいと思う。
	まず、人を呼び込む工夫が必要だと思う。経済的、家計が助かるといった内容は、多くの市民から興味や関心、賛同を得られると思う。「ゼロカーボンの取組は大切」と誰もが思っているが、取組むことによって必要以上の経費がかかるのは御免と考えている方が多いと思うので、「そうではないよ」といった企画が必要だと思う。
	まず、これまで加須市で開催されてきた環境フォーラムのコンテンツに関しての評価・分析結果なども共有いただいてディスカッションされると、よりイメージが湧くかと思う。また、他自治体様の事例などをリサーチし、加須市としての具体的な新企画を立案いただいた上で、それを本推進協議会の皆様でブラッシュアップしていくような進め方が望ましいのかと思う。
	より多くの市民の方に参加いただくためには、環境フォーラムに行ってみようという気をおこす必要がある。フォーラムの内容が環境に絞った内容だけでは、環境によほど関心があるか、関係者以外は参加者が少ない可能性がある。そこで、仕掛けとして、例えば子供が参加したいと思う「戦隊もののイベントショー」などの開催を検討されてはいかがか？戦隊もののイベントショーは、小さなお子さんには大人気である。小さなお子さんが参加すれば、親も必然的に参加する。イベントショーをみていただき、あわせて親子で体験型の実験などで環境学習をしていただくという仕掛けもよいかと考える。 温暖化対策と言うと、ともすれば、コスト（金銭、心理的）負担ばかりと考えられがちですので、“市民が「自分ごと」として捉えられるような具体的で楽しい内容を盛り込み、持続可能な社会の実現に向けた意識を高める場”を提供することが重要と考える。
	ゼロカーボンシティの話聞いた後にランチができるような設定にする。ランチ代は参加費プラスアルファくらいなもの。1人だと行きづらいけど、食事付きだと、友達や家族を誘って行きやすい。
	発電の仕組みや次世代燃料について、子供を含めた家族全員が楽しめる内容が良いと思う。
	環境について自然と話ができる（コミュニケーションの取れる）場所になると良いと思う。
	素晴らしい取組みをされていると思いますが、全くやっていることを知らなかった。大きく告知する必要があると思う。
	今年度はマイボトルの配布を行っていたので、次回はマイはしセットの配布などで使い捨てプラスチックのスプーンやフォークの削減に努めてみるのはよいと思う。

【問4】その他ご意見等があればご記入ください。

	直接にゼロカーボンの対策ではないが、地球温暖化対策としては、道路舗装のグリーン化の推進を検討すべきである。温暖化の一因は、都市のコンクリート・アスファルト化によるヒートアイランド現象であることは疑いない。したがって、ふく射熱の小さい舗装やコンクリート、熱蓄積量の小さい舗装やコンクリートの開発と使用の推進をして、ヒートアイランド現象への対策をすることなしにCO2削減だけを進めても、温暖化対策効果は期待しにくい。熊谷、館林などの夏季の高温はCO2要因では説明がつかない。
	会の環境講座での北崎裕紀子氏のお話が心に残っている。 1. エシカルは倫理的消費と訳されるが、人や社会、環境に配慮した消費行動のことをいう。自分のことだけでなく社会環境のことをちょっと考えてぐっといい未来に向けて行う消費行動がエシカル消費だ。この商品を選んで消費することは環境にいいことなのかと考えて選ぶことが大切だ。 2. フェアトレードとは、公正平等な貿易のこと。発展途上国の生産者や労働者にきちんと対価が支払われる仕組みのこと。一例として、チョコレートのカカオを作っている多くの人の暮らしは、環境が悪く、児童労働や強制労働、低賃金で成り立っていて、生産者に十分な利益がいていない現状がある。海外で生産されて安い商品には安くなる背景があるのだ。ゼロカーボンへの取組も多面的でなければならない。
	農業という仕事の中で、ビニール、プラスチック、石油系燃料をなるべく使わないようにしたいが、現実には、なかなか難しい。農家の高齢化が進み、人手が減っていく中で、どのように農地を含む緑地を維持、活用していけるのか、いつも考えている。なるべく、自分の足元から考えていきたいと思う。
	地産地消によって輸送時の燃料消費量を削減、また、マイカーの利用を控えて公共交通期間を利用することも燃料を削減できるのではないと思う。
	2030 環境ビジョン温室効果達成のため、エコドライブの更なる教育活動の啓蒙活動
	大水害が発生するなど、地球温暖化の影響で、生活が脅かされていることを市民もニュース等で知っている。何か自分でもやらないといけないという意識はあるものの、きっかけがつかめない方も多いと思う。行政は、そのきっかけをつくって、大きな活動のムーブメントなるよう取り組んでいく必要があると考える。
	「ゼロカーボン」というと、排出量をゼロにするイメージがついてしまいがちなので、カーボンニュートラルという言葉も合わせて使用されたほうが良いかもしれない。